

2017年度北海道大谷学園連合会
高等学校相互評価報告書

対象校 函館大谷高等学校



評価校：帯广大谷高等学校
(実施日：2017年10月27日)

2018年3月31日

北海道大谷学園連合会相互評価委員会

北海道大谷学園連合会相互評価委員会

- 主査 藤野 明信（函館大谷学園専務理事）
- 委員 堀 武（大谷学園委員会委員、元北海道学事課長）
- 委員 金石 潤導（真宗大谷派北海道教区教化本部長）
- 委員 大西 正宏（帯広大谷高等学校校長）
- 委員 小野 茂（帯広大谷高等学校教頭）
- 委員 越後屋 亨（稚内大谷高等学校教頭）
- 委員 南條 式史（北海道大谷室蘭高等学校教頭）
- 委員 佐藤 健一（函館大谷高等学校事務長）

函館大谷高等学校の概要

設置者	学校法人 函館大谷学園
理事長名	門 間 佳 一
校長名	丸 山 政 秀
開設年月日	1 8 8 8（明治 2 1）年 1 1 月
所在地	北海道函館市鍛冶 1 丁目 2 番地 3 号
設置学科	全日制普通科
入学定員	1 3 0 名
教職員数	4 9 名

I 建学の精神・教育理念、教育目標・学校目標

建学の精神等は、教職員に対しては理事長講話で再確認、生徒に対しては校長先生が全校集会等で伝えている。平成10年度より“人間大好き”をスローガンとして、「みすてず、きらわず、えらばず」、とことん生徒に寄り添う教育を、教職員が心がけて日々接している点が評価できる。

II 教務

定期考査後、評定「1」が付きそうな生徒に対して補習・追試を行い、合格の場合は評定「2」となる。基礎学力のない生徒に対して学び直しを行う「学力回復期間」を設定し、定着している点が評価できる。

また、放課後に、数学・英語が苦手な生徒には「基礎講座」、大学等進学を考えている生徒には「応用講座」を実施し、個々の生徒の目標に合わせた講座を開設している点が評価できる。

その他、全学年でQUテストを実施し、学級・学校生活への意欲や満足度、友人や教員との関係、学習や進路への意欲等の把握につなげている点も評価できる。

III 生徒指導・部活動

近年、メンタルの弱い生徒が多く入学していることから、昨年度より「入学前面談」を実施している。生徒の状況を事前に知るといふ面と保護者との連携を早期に構築するといふ面で非常に効果があったといふ点が評価できる。

クラブ活動については、体育コース（野球、サッカー、柔道、陸上、バスケットボール）を中心として活発に行われており、全道・全国大会に出場する部活動が増えてきた点が評価できる。また、土曜日・日曜日に4時間以上クラブ活動の指導をしている先生に1200円／月の手当が支払われている。現在、帯広大谷は手当を支払っていないことから今後の検討材料としたい。

IV 進路

1年生を対象に就業体験を行っている。働く人の姿を通して、職業の理解や就職への意欲・関心を高める指導をしている点や、人事担当者や卒業生が就職活動の取り組み方、企業が求める人材、社会人としての心構えを伝えるセミナーを開催している点が評価できる。また、様々な検定を行い、進学・

就職への興味関心を高めモチベーション向上につなげている点も評価できる。

その他、函館大谷高校から函館大谷短大に、3年生の20%の生徒が進学している。今年度の帯広大谷高校の場合は、7～8%の生徒が帯広大谷短大への進学を希望している。帯広大谷短大の存続のための一方法として、高校からの進学者を増やすことも検討する必要がある。

以上、今回の調査訪問で多くのことを学ぶことができました。帯広大谷の今後の教育活動の参考にさせていただきます。ご対応いただきました丸山校長先生、木戸口教頭先生には、多くのご助言をいただき、誠にありがとうございました。感謝申し上げます。

